

第304号

HYOGOニュース

公益社団法人 兵庫県臨床検査技師会
〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-1-38
TEL 078-271-0255 FAX 078-271-0256
E-mail info@hamt.or.jp

編集委員
鳥居良貴 / 増井 裕 / 市丸加奈子 / 石野瑠璃
小松敏也 / 松田武史 / 真田浩一 / 藤本宏巳

臨床検査情報センター
URL <http://www.hamt.or.jp>

今月号の内容

■ 平成26年度 臨時総会および講演会 開催	1~2
■ 《各部局報告》	3
■ 《行事予定表》	4~5
■ 《賛助会員コラム》・《各部局報告》・《求人情報》	6~7

平成26年度 臨時総会および講演会 開催

ー 27年度事業計画・予算等が承認されましたー

平成27年3月21日 兵臨技研修センターに於いて臨時総会が開催され、審議の結果すべての議案が承認されました。

<審議経過>

総会議長に林伸英会員（神戸大学医学部附属病院）が選出され、書記として長澤佳美会員（兵庫医科大学病院）を任命し、総会資格審査では、当日出席 32名、委任状出席1,346名、議決権行使書提出者 205名で会員の過半数の出席を得て総会が成立し、議案審議が開始されました。

<平成27年度 事業計画（案）>

公益社団法人として公益事業に重点を置いた事業展開を行います。当会は、臨床検査を通して県民に良質な医療を提供することをモットーとしています。そのためには、一層の学術、技術レベルの向上を図り、臨床検査に関する情報はわかりやすく県民に広報し、更には臨床検査技師が新たなものに取り組むチャレンジ精神を培う環境が必要です。

2025年には人口の1/4以上が75歳以上という超高齢化社会が到来すると言われ、医療体制も在宅医療への移行や病院の機能分化を図ろうとしています。この医療改革の中、各種コメディカルは業務を取り合っている状態です。当会は日臨技の事業活動に符合した事業計画を加味し、これらの変革に対応していく必要があります。

平成27年度の事業計画・予算については、詳細な事業計画や予算でなく、柔軟性と機能性を備えたものとししました。基本的に平成26年度の事業を継承するものです。会員の学術の向上は必須条件であります。特に検査説明も始まったことから病態の理解は重要となっています。上記の医療改革への対応については来年度を基本的な情報収集の年度と考えています。

事業は3つの公益目的事業（衛生思想向上事業、精度管理事業、学術事業）と2つの共益事業（会員資質向上事業、広報事業）、法人事務局事業に大別し、それぞれの事業計画案及び予算案を提



林会員

示します。

●事業推進局は公益目的事業の3事業を行う。

1. 公衆衛生の向上及び臨床検査に関する普及啓発を行う。
2. 臨床検査の標準化の推進、並びに精度管理調査及び指導を行う。
3. 学術及び技術の振興を行う。

●組織活動局は共益事業の2事業を行う。

1. 会員の交流、連携強化のため会員資質向上事業活動を行う。
2. 県民・会員への情報提供を図り、活動の推進を促す。

●法人事務局は、総務部と経理部からなり、会員管理及び法人に関する所掌事務と会計事務を行う。



<平成27年度 事業予算(案)およびその他の付随事項>

総予算2,326万円(前年度比88万円減)で承認されました。

当会が、公益社団法人の監督官庁である兵庫県に「平成27年度資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類」を兵庫県に提出することも承認されました。

<名誉会員承認(案)>

定款 第3章 第5条(3)に基づき、当会前会長富永博夫氏を名誉会員とすることも承認されました。

平成28年8月には神戸国際会議場に於いて(一社)日本臨床衛生検査技師会全国学会である日本臨床医学検査学会の担当県として、世界医学検査学会(IFBLS学会)と日本臨床検査医学会の同時開催が決定しており、準備を進めています。テーマは「Challenge -伝統の継続と未来への進化-」です。会員並びに関係各位にご理解とご支援を頂き、多くの方にとって有益な、そして心に残る学会として成功させたいと思っています。会員、賛助会員、並びに兵庫県をはじめ、県医師会、各医療関係団体には、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(平成26年度 臨時総会議案書 抜粋)

引き続いて、下記の講演会が行われました。

・「精度保証施設認証の取得の意義を考える」

山本 慶和 先生(天理医療大学医療学部)

・「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」実施要領

横地 常広 先生(一社 日本臨床衛生検査技師会 専務理事)

・「病理取り違い事故の検証 ～再発防止への対応について～」

山中 陽子 先生(高砂市民病院)

・「臨床検査技師から医療安全管理者へ ～医療安全管理者からみた検査室～」

岡本 由美 先生(医療法人 天和会 松田病院)



山本先生



横地先生



山中先生



岡本先生



各局報告

学術・組織

第9回丹但地区学術組織合同研修会 (2月28日)



今年度の学術組織合同研修会は、一般検査研究班のご尽力により企画された。当日は、検体採取の講習会と重なり参加状況が危ぶまれたが、多くの会員に参加いただき大変盛況であった。講演内容は、一般検査に関する5演題で、新しい血糖降下薬が尿検査に及ぼす注意点、尿定性と尿沈渣が乖離する場合に想定される様々な要因、尿路感染症の基礎と尿路感染症検査のガイドラインの解説、尿検査・バイオマーカーの紹介とアルブミン/蛋白比の活用の可能性、尿細管の解剖と機能、近位尿細管上皮細胞と遠位尿細管上皮細胞を形態的特徴から鑑別する方法など、非常に充実した日常業務に直結する内容であった。予定終了時間より約30分超えてしまったが、最後まで多くの参加者が熱心に聴講していた。

(組織部：中島)

●「新しい糖尿病治療薬の登場と臨床検査結果に対する影響」



水野 雅仁 (シスメックス㈱大阪支店 学術サポート課)

第9回丹但地区学術組織合同研修会に参加させていただき、標記の内容についてご説明をさせていただきました。

2014年4月より、各社から新しい糖尿病治療薬「SGLT2阻害剤」が発売されました。この薬は「尿中に糖が出ることが悪い」というこれまでの考え方を覆す、他の糖尿病治療薬とは全く考え方の異なる薬です。使用により、血液中の過剰な糖を尿中に積極的に排出することにより血糖値を下げるという効果があります。

SGLT2阻害剤の使用に対する注意として、糖尿病患者の尿には、これまでより多量の糖が含まれることから、細菌繁殖がしやすい環境となり、添付文書中にも「尿路・性器感染症を起こすことがあるので・・・」と記載されています。他にも、血糖値が正常でも尿糖が出るというこれまでとは異なる検査結果、体内における糖質不足の状態から尿中ケトン体の出現や、注意すべき感染症の指標となる白血球反応も高比重尿により偽陰性化する可能性なども考えられます。

新しい薬の登場により、これまで以上に尿検査結果に対して注意する必要性が高まりました。弊社も自動分析装置のメーカーとしてその一助となるべく、新しい情報のご提供など、これからも努力を続けて参りたいと思います。

● 丹但地区学術組織合同研修会に参加して



吉野 由理絵 (公立八鹿病院)

標記の研修会が、梁瀬医療センターにて開催されました。内容は「新しい血糖降下薬の登場による検査の責務」、「尿定性と尿沈渣乖離について」、「尿路感染症の基礎知識と尿検査」、「腎機能の働き(濾過機能とタンパク・クレアチニンについて)」、「意外と曲者!尿細管上皮細胞を考える」の5演題で、解剖や尿検査の基礎から新薬のお話まで、盛りだくさんな内容でとても有意義な時間でした。尿路感染症の演題では、普段担当していない細菌検査の目線から尿検査について考えることができました。どの検査でも同じですが、担当はしていなくとも分野を超えた幅広い知識をもって検査を行っていくことが大切であると改めて感じました。今後も研修会等に積極的に参加し、知識の向上に努めていこうと思います。最後になりましたが、今回このような研修会を企画してくださった方々に厚く感謝いたします。ありがとうございました。

賛助会員

ヨリム [37]

 **Techno Medica**
 **株式会社テクノメディカ**

(株)テクノメディカ

～ 検体管理はバーコードからICタグの時代へ～

井上 淳 (営業企画部)

私どもテクノメディカは、医療機器・医療用分析装置の製造及び販売を目的として昭和62年9月に神奈川県川崎市で設立しました。

テクノメディカと言えば、自動採血管準備装置BC・ROBOと思われがちですが、創業時から今も血液ガス分析装置を始め、電解質分析装置、自動赤血球沈降速度測定機からPOCT製品まで自社開発し、販売しております。

BC・ROBOの歴史は、平成3年に発売したBC・ROBO-520から始まりました。

当時の採血管準備装置は、現在の採血管準備装置とは大きく機構が異なり、XY軸に稼動するハンドラーが採血管をピックアップし、ラベルの貼付、採血管の搬送、ラックへ収納する仕様でした。

現在の採血管準備装置の原点になったBC・ROBO-585は平成7年5月に発表し、ちょうど全国の病院が新規でオーダーリングシステムを検討、導入する時期と重なり、大ヒットした商品となりました。

その後、BC・ROBO-686、787、888へモデルチェンジを行い、採血管準備装置は採血における省力化、安全性が認知され、採血患者様の番号呼出から照合までをシステム化した採血業務アシストソリューションまで発展しました。

現在、自動採血管準備装置BC・ROBOシリーズは全国約1,800施設で稼動し、海外ではアジア、ヨーロッパを中心に22ヶ国450台以上が稼動しております。

また新製品であるBC・ROBO-8000RFIDは、ICタグをラベルに内蔵し、採血管の一括照合を可能にしました。

従来、バーコードで到着確認を行う際、採血管を1本1本バーコードで読み取る必要がありましたが、RFID検体情報統括管理システムTRIPS(トリップス)を用いれば、100本の採血管の検体情報を4秒で読み取ることが可能となり、検査室での検体到着確認、病棟での一括検体受領確認など安全且つ確実に行えるシステムへと発展しました。

RFID検体情報統括管理システムTRIPSは発売して2年で既に35施設のお客様にご採用頂いており、検体管理における完全性、確実性で大きな効果を上げ一歩先の検体管理を実現します。

商品問い合わせ：株式会社テクノメディカ 営業本部 045-948-1961

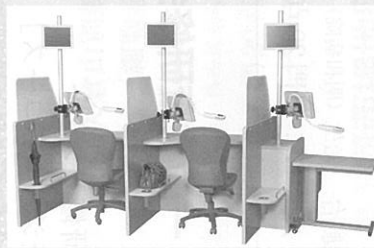
www.TechnoMedica.co.jp



自動採血管準備装置
BC・ROBO-8000RFID



全自動pH/血液ガス分析装置
GASTAT-1800シリーズ



採血業務アシストソリューション

渉 外 部

第42回兵庫県医療職団体協議会合同研修会 (3月15日)

兵庫県看護協会会館(ハーモニーホール)に於いて、「みんなで考えよう! 認知症 ～住み慣れた地域で暮らし続けるために～」をテーマに標記研修会が開催されました。会場には医療従事者

だけでなく、一般の方も多く、100名近くの方々にご参加いただきました。

最初に「認知症診断・予防」の第一人者である浦上克哉先生(日本認知症予防学会 理事長、鳥取大学医学部保健学科教授)による基調講演がありました。「認知症予防のできるまちづくりをめざして」と題し、認知症の早期発見や認知症患者さんへのかかわり方について非常にわかりやすくご講演いただきました。ゆったりとした口調で内容も理解しやすく、クイズ形式で、挙手を促すなど参加型のスライドもあり、聴講された皆さんは話に引き込まれていました。



浦上先生



澤田先生



次にパネルディスカッション形式で、看護師、栄養士、放射線技師、臨床工学技士、歯科衛生士および臨床検査技師の各医療職団体代表による講演が行われました。当会からは澤田浩秀先生(神戸常盤大学)がパネラーとして参加し、「認知症の検査」と題して最先端の認知症関連検査を発表しました。中でも兵庫県栄養士会代表の前田佐江子先生による「認知症患者に対する食事の提供」の講演で、料理療法の話が興味深い内容でした。作物をつくらんとことからはじめ、昔の記憶をたどりながら料理をすることで認知症由来の攻撃性がなくなったり、無口な方がしゃべり始めたりと変化がみられたそうです。

最後に、浦上先生と6団体の代表が一堂に会し、会場の一般の方々も交えて様々な視点から認知症に関しての意見交換を行いました。



日本では平成22年度時点で65歳以上の方で7人に1人程度が認知症と発表されており、認知症を正しく理解し、予防・ケアすることが大事と言われています。今回の研修会を通して、認知症患者さんを支えるには他職種および地域と連携することが大切であることを強く感じました。

(広報部：石野)

求人情報

*詳細は求人先に各自お問い合わせください。

●(医・社)倫生会 みどり病院

交 通：JR明石駅下車 バス10分

採用条件：正社員・臨時職員

業務内容：検体検査・生理機能検査

連絡先：078-928-1700 (事務局 額田)

●(医)伯鳳会 明石リハビリテーション病院

交 通：山陽電車東二見駅下車 徒歩15分
西二見駅下車 徒歩10分

採用条件：要相談

業務内容：検査業務全般

連絡先：078-941-6161 (小寺)

●関西労災病院

交 通：JR立花、阪急武庫之荘 バス10分

採用条件：嘱託職員

業務内容：病理検査

連絡先：06-6416-1221 (総務課 村山)

●(医)伯鳳会 はくほう会セントラル病院

交 通：阪急神戸本線園田駅下車 徒歩6分

採用条件：正職員

業務内容：検査業務全般

連絡先：06-4960-6800 (亀井)

●慈恵会 新須磨病院

交 通：JR須磨海浜公園駅下車 徒歩2分

採用条件：正社員

業務内容：生化学・血液・一般・生理など

連絡先：078-735-0001 (総務課 西本)

●市立加西病院

交 通：北条鉄道北条町駅下車 市街地循環バス5分

採用条件：正規職員(H27年6月1日採用) 1名

臨時職員(年齢制限なし) 若干名

業務内容：検査業務全般(正規職員)

検体検査(主に病理、血液)(臨時職員)

連絡先：0790-42-2200 (総務課 桜井)

第22回兵庫県医学検査学会開催(ご案内)

1. 日 時：平成27年6月28日(日) 10:00～

2. 場 所：丹波の森公苑 多目的ルーム
(地図またはホームページ参照)

<http://www.tanba-mori.or.jp/>

〒669-3309

丹波市柏原町柏原5600

TEL：0795-72-2127

3. 内 容：学 会(一般演題)

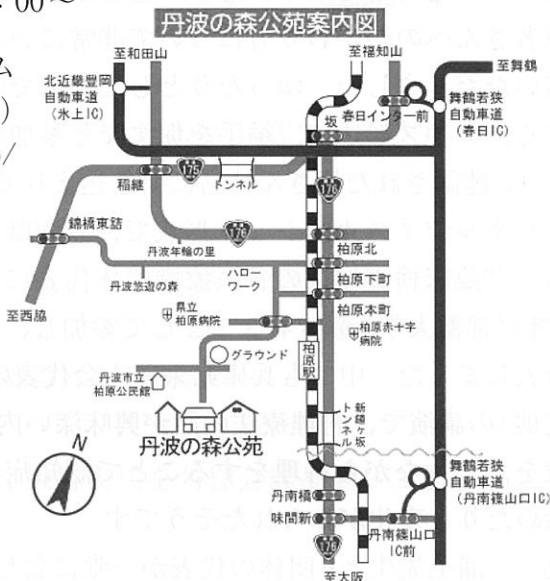
10:00～12:00

昼 食

12:00～13:00

学術賞受賞講演

13:00～13:30



Wako



胃がんの
リスク評価に！

胃粘膜萎縮を反映するペプシノゲン法と
ヘリコバクター・ピロリ抗体による胃がんリスク評価が
検診に有用との報告があります。

自動化学発光酵素免疫分析装置 SphereLight Wako用試薬

●体外診断用医薬品 承認番号21000AMZ00811000

スフィアライト ペプシノゲン I**

●体外診断用医薬品 承認番号21000AMZ00812000

スフィアライト ペプシノゲン II**

●体外診断用医薬品 承認番号22500AMX01843000

スフィアライト H.ピロリ抗体・J*

汎用自動分析装置用試薬

●体外診断用医薬品 認証番号221AAAMX00133000

LTオートワコー ペプシノゲン I*

●体外診断用医薬品 認証番号221AAAMX00134000

LTオートワコー ペプシノゲン II*

[製造販売元]*

和光純薬工業株式会社

大阪市中央区道修町三丁目1番2号

[製造販売元]**

三洋化成工業株式会社

京都市東山区本町11-721

[問い合わせ先]

和光純薬工業株式会社

臨床検査薬 カスタマーサポートセンター

TEL: 03-3270-9134(ダイヤルイン)

胃がんリスク評価(ABC分類)

	A	B	C	D
H.ピロリ抗体	陰性	陽性	陽性	陰性
ペプシノゲン	陰性	陰性	陽性	陽性
リスク	(低)			(高)